

ABCアナウンサー
堀江政生の

Sinfonia
Hour



シンフォニア・アワー

クラシックの意外な裏話や、ザ・シンフォニーホールにまつわる話など、
ここだけのとっておきエピソードをご紹介します。

vol.8 名曲と逸話

8月26日 HJリム ピアノ・リサイタル 4大ソナタ〜疾風怒濤のベートーヴェン にちなんで

小さい時から本を読むことが好きだった私ですが、やたらと覚えている話があります。
子ども向け偉人伝の「ベートーベン」の一節。要約するとこんな感じです。

《ある月夜の晩、ベートーベンが散歩をしているとピアノの音色が聞こえてきた。あまりの
美しさに胸を打たれ、音を頼りに建物の中に入っていくと、薄暗い部屋で盲目の少女がピアノ
を弾いていた。ベートーベン少女のために即興で演奏をする。その演奏を聴いて少女は
「あなたはベートーベン先生ですね」と言ってベートーベンの手を取り、感激して涙した。こ
うして生まれたのが、ピアノ・ソナタ14番『月光』だった…》

子どもごろに感激したのか、母に話すと「知っているわよ、その話。昔、学校で習った
から」と言われ自慢気に話したことを恥ずかしく感じたように記憶しています。

ところが、この逸話は全くの創作。いってみればデタラメであることをのちに知る訳です。

そもそもピアノ・ソナタ14番は30歳の時の作品で、すでに耳が悪くなり始めていた。散歩中
にピアノの音を聴くことは出来なかったはず。それが証拠に、聴力の衰えから自殺を考え、
しかし音楽に救われ作曲家として生き続けることを決意するいわゆる「ハイリゲンシュ
タットの遺書」はすぐ翌年に書かれている。だいたいピアノを弾いていたら、突然おっさんが
現れて、やあらピアノをガンガン弾きだしたとしたら、普通は警察沙汰だろうが…などと、夢
のないことを言っていてはいけないうすね。

実は、叶わぬ恋に苦しみながらも愛する女性に捧げられた『月光』。こんな爽やかな逸話を
創りだした人は、なんと想像力豊かな方だったのでしょうか。ベートーヴェンへの愛を感じます。

このストーリーが初めて語られた時、天国でベートーヴェンはあの厳つい顔を、ちよっ
とだけほころばせたような気がします。

公演の聴きどころ、豪華ゲストを招いてのお話など、名曲とともにご紹介!



堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー

ABCアナウンサー堀江政生が、豊富なクラシックの知識を余すところなく語る30分。

1008 ABC Radio

毎週日曜日
あさ7時5分〜7時35分